

多発性骨髄腫に対する CAR-T 細胞療法を開始 ～徳島大学病院、血液がんに対する高度細胞療法拠点へ～

<報道概要>

徳島大学病院血液内科では、令和 8 年 5 月より、多発性骨髄腫に対する遺伝子改変型 T 細胞療法（CAR-T 細胞療法）を開始しました。

多発性骨髄腫は、再発を繰り返しながら治療抵抗性を獲得する難治性血液がんであり、近年、BCMA（※）を標的とした CAR-T 細胞療法が新たな治療選択肢として注目されています。一方で、本治療は高度な診療体制と細胞療法基盤を必要とするため、実施可能施設は限られています。

徳島大学病院では、昨年より悪性リンパ腫に対する CAR-T 細胞療法を実施してきましたが、今回、新たに多発性骨髄腫に対する CAR-T 細胞療法を開始することで、主要な血液悪性腫瘍に対する包括的な細胞療法体制を整備しました。

CAR-T 細胞療法は、患者自身の T 細胞を体外で遺伝子改変し、がん細胞を特異的に攻撃できるようにした後に再び患者体内へ戻す、高度な免疫細胞療法です。従来の治療では治療継続が困難であった、再発・難治性血液がんに対して、高い治療効果が期待されています。

徳島大学病院は、従来より四国における造血幹細胞移植の基幹施設として、多くの高難度症例を受け入れてきました。今後は、造血幹細胞移植と CAR-T 細胞療法を中心とした「移植・細胞療法センター（TCU）」機能をさらに強化し、四国全域における高度血液がん診療拠点としての役割を担っていきます。

<用語説明>

（※）BCMA

BCMA（B 細胞成熟抗原）は、主に多発性骨髄腫細胞の表面に高発現するタンパク質であり、正常組織を温存しながら、がん細胞を特異的に攻撃する治療標的として注目されています。この特性は、CAR-T 細胞療法や二重特異性抗体などの新規がん免疫療法において極めて有用なターゲットとなっています。

お問い合わせ先

徳島大学病院血液内科

診療科長／教授 松岡 賢市

電話番号 088-633-7120

メールアドレス k-matsu[アット]tokushima-u.ac.jp

※メールを送信する場合には、[アット]を@に置き換えてください。